

生涯学習と生涯学習センターに関する市民対象のアンケート調査結果報告

小山市教育委員会 生涯学習課

はじめに

小山市立生涯学習センターの今後の在り方に関する調査の一環として「市民の声を聞く機会」を設け、市民向けの公開フォーラムとアンケートを実施しました。アンケートは市内の各公民館、生涯学習センター並びに各市民交流センター、まちなか交流センターに紙（筆記式）による記入票を配置するとともに、オンラインサイトからの回答も可能としました。

概略

アンケートは実施期間を令和4年5月15日～6月15日とし、「生涯の学び」についての質問項目と「小山市立生涯学習センターのあり方」に関する質問項目とに分けて、市民等がどのような学びを求めているかを問いました。

	設問数		設問概略	
おもて面	第1群	2問	生涯学習センターについて	利用頻度と手段
	第2群	1問		各催事の参加経験の有無
		4カ所、各2問		各部の利用実績と感想
		1問		センターの魅力
うら面	第3群	2問	生涯学習について	学びたい理由、学ぶ理由
		1問		充実してほしい情報
	第4群	1問		生涯学習について
		1問、自由記述		お気に入り点
		1問、自由記述		期待と提案
	第5群	4問		フェイスシート

前半（おもて面）は小山市立生涯学習センターの使い方について問い、利用頻度、利用における交通手段、またそれぞれの場所に対する利用実績や気づいたことを回答できるようにしました。

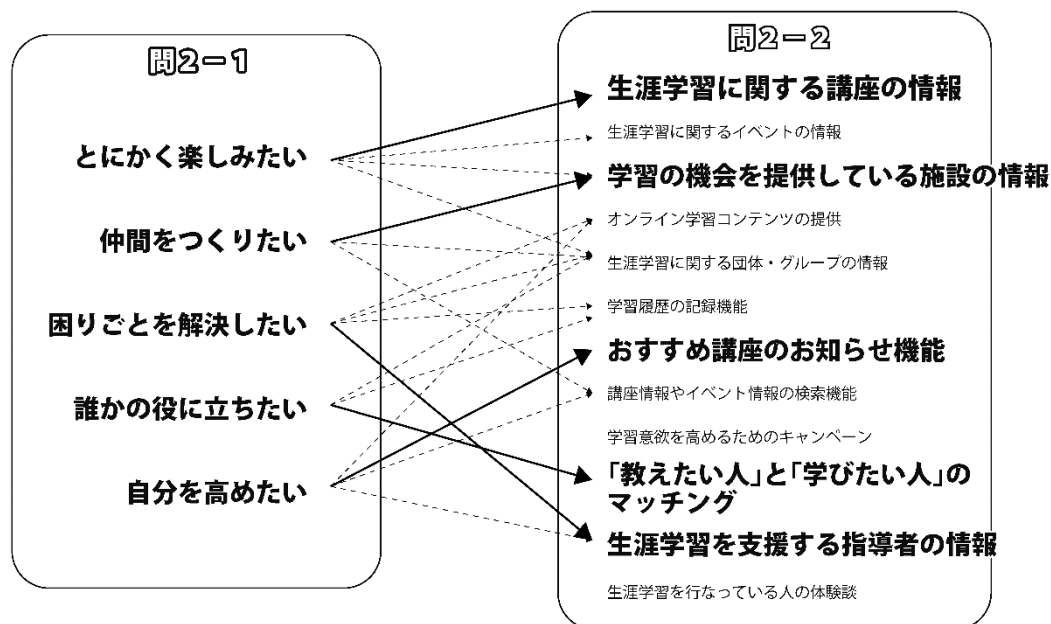
後半（うら面）では、回答者が現時点で必要とする学びや将来に向けてどういった事柄を学びたいかを回答する内容になっていて、自由記述の質問も2点、「生涯学習センターの良いところ」についてと、全体に対する「総合的な回答を行う質問」とを用意しました。これらに関しては、計量的な評価よりも個別的または具体的な事柄を丁寧かつ広く集めたほうが参考すべき情報が得られるのではないかと考えたものです。最後にフェイスシート（年齢や家族構成など個人的な質問項目）を設け、回答者の属性を絞る質問をしています。

回答票の集約結果

1ヵ月間の募集期間で計269通の回答を得ることができ、得られた回答を集計した後、回答者の属性別（男女の別であったり、年代の別であったり等のことを指します）の母数を補正する形で簡単な分析を行いました。

個人名など個人情報が一切ない形で回答票を受け取りましたが、各回答は1票ずつ管理され、そのこ

とにより、とある設問の回答と別の設問の回答とを結びつけることができます。すなわち、ある質問の回答結果一つ一つの回答項目を「選んだ」か「選ばなかった」かによって別の質問の回答を掛け合わせによる類別をしました（クロス集計）。そうしたところ、質問それぞれの掛け合わせにおいて、たとえば質問2-1「何のために学ぶのか」と質問2-2「どのような情報を求めているか」とについて、次のような関係性が見られました。



得られた結果については、小山市立生涯学習センターや小山市の生涯学習の推進に必要となる市民ニーズを具体的な方策と併せて今後の事業づくりや講座、交流会などの組み立てにおいて参考とし、活用いたします。

本報では、アンケートの集計や分析の結果をつぎのようまとめました。

- 1 節 集計
- 2 節 データ概観
- 3 節 分析
- 4 節 まとめ

第1節 集計

アンケートのおもて面では生涯学習センターの使い方やそれに伴う感想などを尋ねています。うら面最後のフェイスシートとともに回答者の属性概略を示して関係性をたどることが出来ますが、ここではまず単純集計を見ることとします。

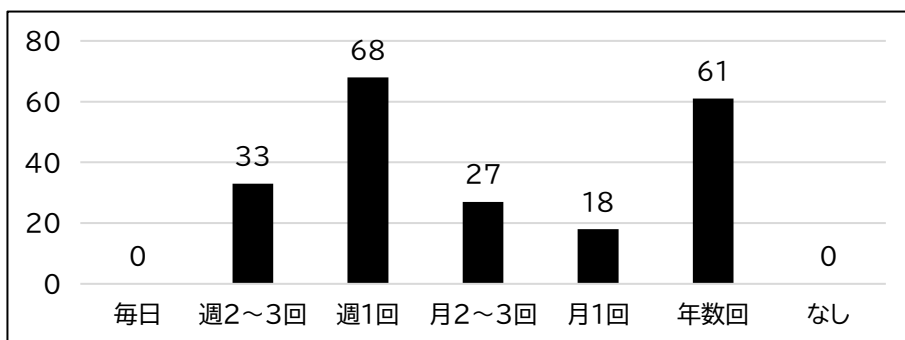
忘れてはならない観点としては、この集計結果は単に回答者の傾向を示しているだけで、小山市立生涯学習センター利用者の全体像や、小山市民全体の傾向を示すものではありません。それを前提として集計結果をたどることとします。

1. 1 おもて面

おもて面は全5問。ここでは主に生涯学習センターの使い方や使い勝手とその感想について質問しています。

問1-1. センター利用の頻度

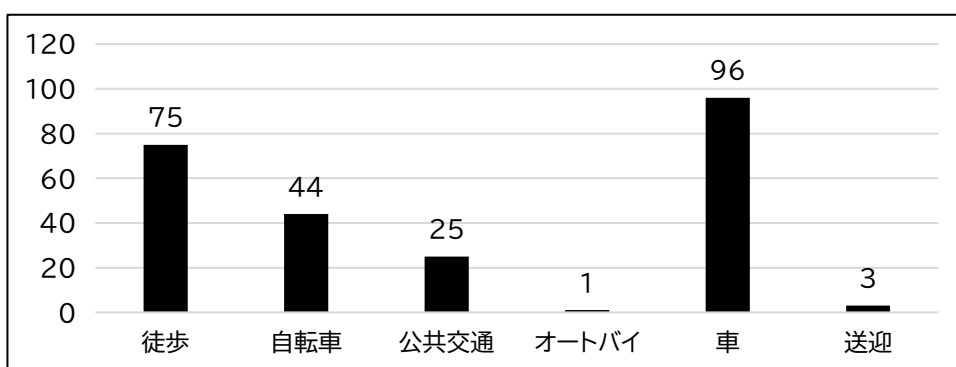
回答した方々のセンターの利用頻度については「3. 週1回の利用を行う人」と、「6. 年数回の利用を行う人」の2つがより多く回答を集めていました。



	個数
毎日	0
週2~3回	33
週1回	68
月2~3回	27
月1回	18
年数回	61
利用したことはない	0

問1-2. センターまでの交通手段

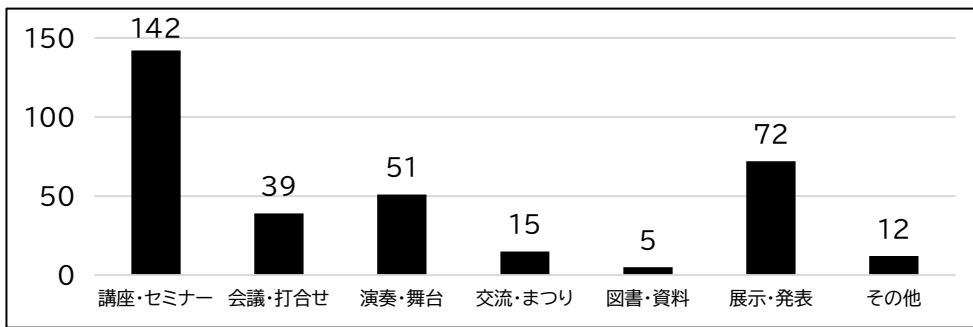
センターまでの交通手段では「自家用車（選択肢では「車」と表記）」の利用者が最も多く、次いで「徒歩」での利用でした。中心市街地にある施設なので「徒歩」につづけて「自転車」「公共交通」も一定の回答を集めています。



	個数
徒歩	75
自転車	44
公共交通	24
オートバイ	1
車	96
送迎	3

問1-3. 参加したことがあるセンターの行事やサービス

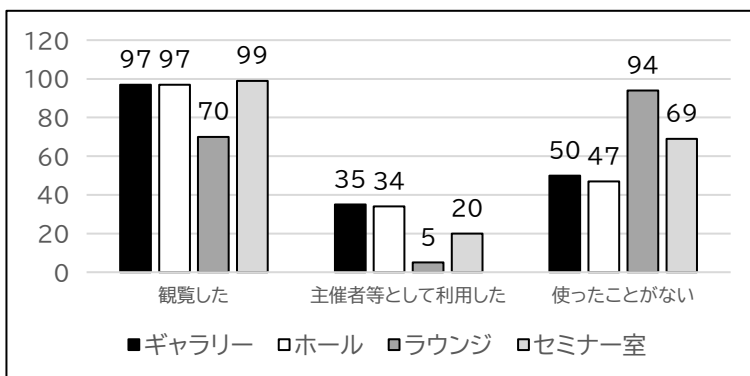
センターでの行事に参加したりサービスを利用したかどうかを問うた回答では「講座・セミナー」が最も多く、次いで「展示・発表」となっていました。また、それらに「演奏・舞台」と「会議・打合せ」が続いています。



	個数
講座・セミナー	142
会議・打合せ	39
演奏・舞台	51
交流・まつり	15
図書・資料	5
展示・発表	72
その他	12

問1-4. 利用の有無と形態

センター内の主要な4設備について、利用の仕方とその感想を問うています。観覧利用（客体としての参加）が多くを占め、主催者としての利用（主体利用）は、その3～5分の1程度で、それぞれの設備を「まだ使ったことがない」という回答も5分の1程度見られました。



	ギャラリー	ホール	ラウンジ	セミナー
観覧した	97	97	70	99
主催者等として	35	34	5	20
使っていない	50	47	94	69

※ラウンジに関しては自由利用なので「観覧した」ではなく「たまに休憩する程度」、「主催者等として利用」に替えて「好んで利用する」の回答を掲載しています。

問1-4-2. 利用の有無と形態

その後、それぞれの設備について「使って気づいた点（あれば）」を尋ねていて、回答概略（件数）は次の通りとなりました。

	ギャラリー	ホール	ラウンジ	セミナー室
よかったこと	4件	6件	5件	5件
悪かったこと	4件 (2)	8件 (3)	4件 (1)	8件 (3)
みんなのための提案	2件	2件	なし	1件
自分のための提案	3件	3件	1件	2件
その他、感想	4件	6件	3件	4件

このうち「悪かったこと」の（ ）内の数字は、料金が低い、照明が暗い、部屋が狭い、の3つの回答の数を示しています。

本回答の全編はp 18に整理していますが、そのうち「みんなのため一般」の提案項目では、次のよう

な趣旨の回答がありました。

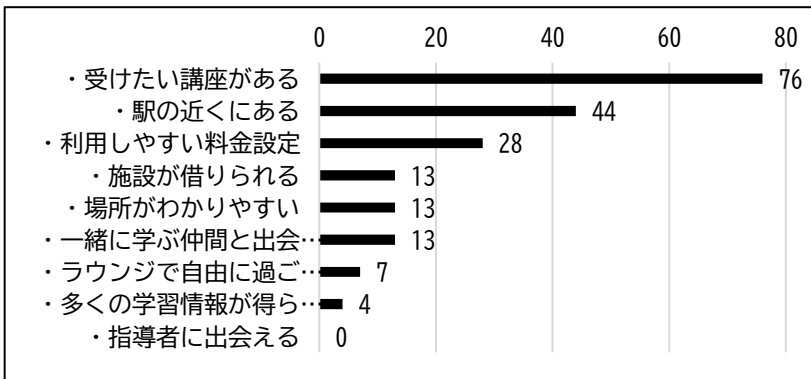
- 若い方が参加しやすい工夫（若手芸術家展やコンサート）を
- 新幹線駅隣接や小部屋が複数ある当施設の特徴を、県外の講師招へいのし易さとしてアピールすべき
- いざとなった時のために避難訓練を拡充すべき
- セミナー室のイスとテーブルの削減（狭さの緩和）

一方、みんなのための提案に対して自分のための提案とも言える「利用上の課題や都合」についての提案項目については、次のような声がありました。

- ヨガ利用のような短時間しか必要としない団体向けの利用枠を設けてほしい
- Wi-Fiを整備してほしい
- 1つの部屋を分割して使える様にしてほしい

問1-5. あなたが感じるセンターの魅力

センターの魅力について尋ねている設問です。「受きたい講座がある」ことが最も多く、「駅の近くである」こと、「料金設定が利用しやすい」が続いています。



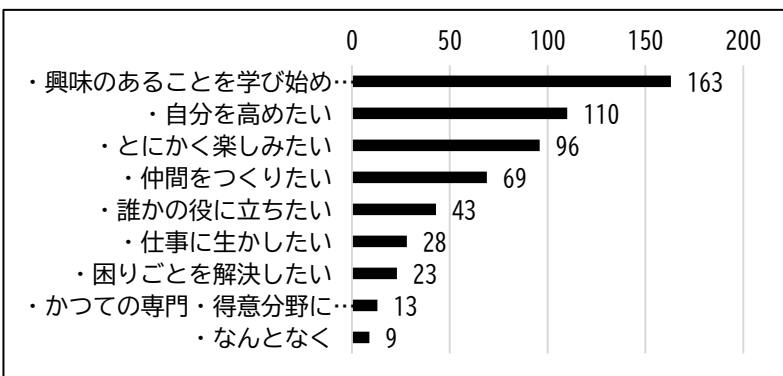
魅力	回数
・受きたい講座がある	76
・駅の近くにある	44
・利用しやすい料金設定	28
・施設が借りられる	13
・場所がわかりやすい	13
・一緒に学ぶ仲間と出会う	13
・ラウンジで自由に過ごす	7
・多くの学習情報が得られる	4
・指導者に出会える	0
・無回答	15
・その他	4
合計	217

1.2 うら面

うら面では回答者の「学び」に関する設問が中心となっていて、最後には回答者の属性概略を分類するフェイスシートを4問設けています。

問2-1. あなたが学びたい理由

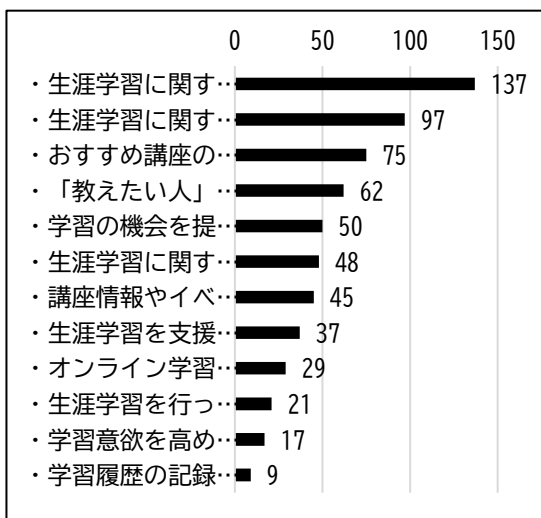
回答者が学びたい理由を尋ねています。「興味のあることを学び始めたい」が一番多く、「自分を高めたい」「とにかく楽しみたい」「仲間をつくりたい」との回答が続きました。



理由	回数
・興味のあることを学び始めたい	163
・自分を高めたい	110
・とにかく楽しみたい	96
・仲間をつくりたい	69
・誰かの役に立ちたい	43
・仕事に生かしたい	28
・困りごとを解決したい	23
・かつての専門・得意分野について学びなおしたい	13
・なんとなく	9
・無回答	28
・その他	6
合計	588

問2-2. センターで充実してほしい情報

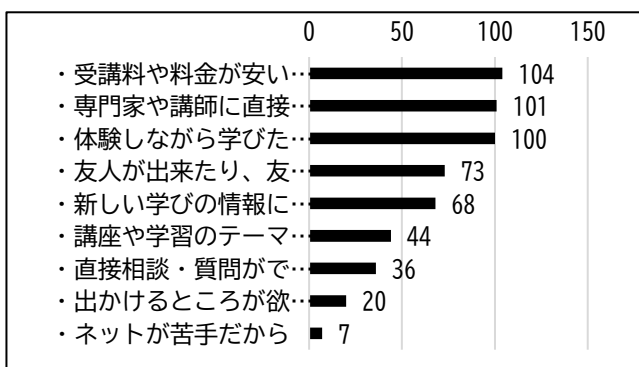
センターで充実してほしい情報については、それぞれ「生涯学習に関する講座の情報」「同・イベントの情報」が2大回答となり、次いで「おすすめ講座のお知らせ機能」や、「教えたい人と教わりたい人とのマッチング」等がつづきました。



	個数
・生涯学習に関する講座の情報	137
・生涯学習に関するイベントの情報	97
・おすすめ講座のお知らせ機能	75
・「教えたい人」と「学びたい人」のマッチング機能	62
・学習の機会を提供している施設の情報	50
・生涯学習に関する団体・グループの情報	48
・講座情報やイベント情報の検索機能	45
・生涯学習を支援する指導者の情報	37
・オンライン学習コンテンツの提供	29
・生涯学習を行っている人の体験談	21
・学習意欲を高めるためのキャンペーン・プレゼント等	17
・学習履歴の記録機能	9
・その他	7
・特になし	11
・無回答	34
合計	679

問2-3. 生涯学習施設に来て学ぶ理由

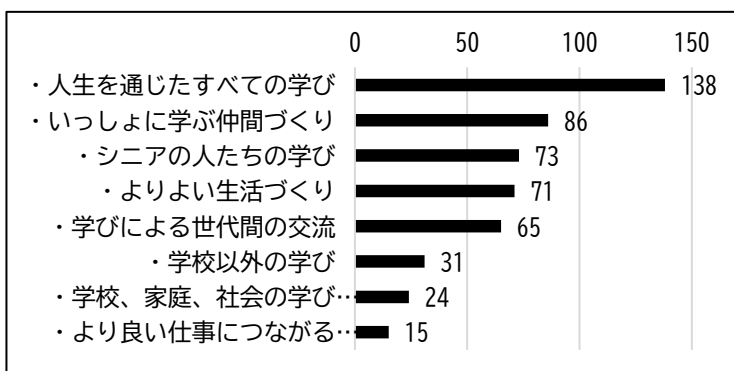
センター（等）で学ぶ理由としては「受講料や料金が安い」「体験しながら学びたい」「専門家や講師に気軽に話ができる」が上位に来ていました。



	個数
・受講料や料金が安いから	104
・専門家や講師に直接話を聞いて学べるから	101
・体験しながら学びたいから	100
・友人が出来たり、友達に会えるから	73
・新しい学びの情報に触れられるから	68
・講座や学習のテーマや難易度がちょうど良いから	44
・直接相談・質問ができるから	36
・出かけるところが欲しいから	20
・ネットが苦手だから	7
・無回答	0
・その他	0
合計	553

問2-4. 「生涯学習」という言葉についてあなたが抱くイメージ

「人生を通じたすべての学び」やそのきっかけとなる「いっしょに学ぶ仲間づくり」の選択肢に回答が集まっていました。



	個数
・人生を通じたすべての学び	138
・いっしょに学ぶ仲間づくり	86
・シニアの人たちの学び	73
・よりよい生活づくり	71
・学びによる世代間の交流	65
・学校以外の学び	31
・学校、家庭、社会の学びの集大成	24
・より良い仕事につながる学び	15
・無回答	0
・その他	0
合計	503

問2-5 「センター利用で気に入っているところ（好きなこと、もの）」

現在のセンターに関して「気に入っている点」について尋ねたところ、次のような回答傾向が見られました。（詳細はp19）

種類	回答数
便利（近くて便利を含む）	19件
手軽な料金	6件
気軽に参加できる	8件
職員が親切	10件
清潔	2件
交流、出会い	3件
ヨガ・ストレッチ講座が受けられる	6件
かつて魅力があった	1件
意見（苦情ほか）	7件

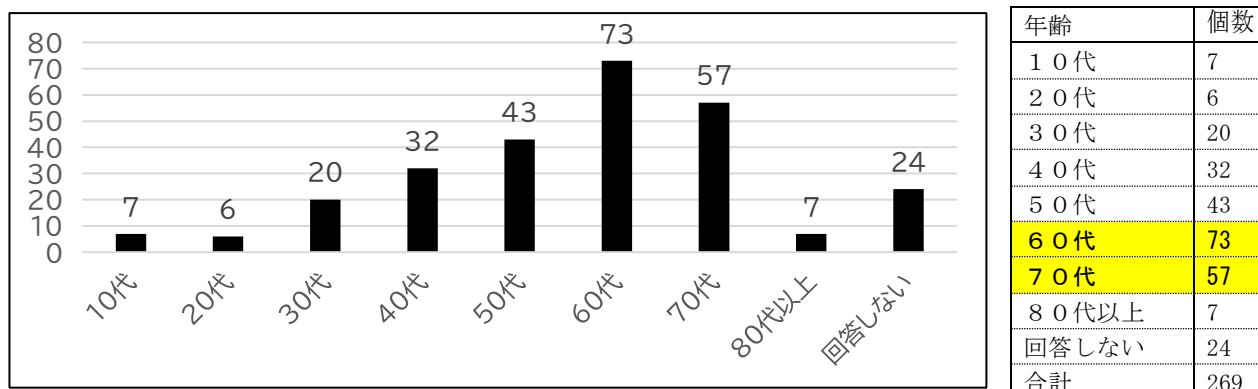
問2-6 「小山市の生涯学習への期待」

さらに「小山市の生涯学習への取り組みに関する期待」について自由回答を求めています。この回答数の概要は次の通りです。（詳細はp20の質問2-6の回答全編をご覧ください）

生涯学習について	在り方や提案	24件
	広報・啓発	4件
生涯学習センターについて	センターの在り方	20件
	センターの広報	4件
	センターの料金	5件
	貸館業務の在り方	2件
	講座	29件
	講座の在り方	4件
	駐車場	16件
その他	7件	

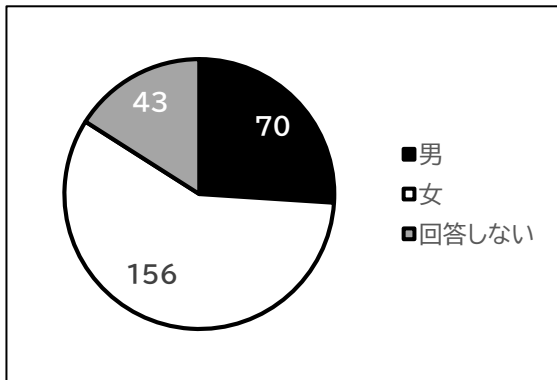
意見や提案のなかには、「マニアックな学びの場が欲しい」や、一方で「リラックスできる場があるのが良い」「悩みがある人の癒しの場になるような場所」などの回答が寄せられていました。立場や置かれた状況によって様々なアイデアが書かれていました。

以下の設問はフェイスシートです。回答者の中では60代が最も多く、続いて70代、50台と分布していました。80代の方も7人がこのアンケートに回答していました。



男女別の回答者数

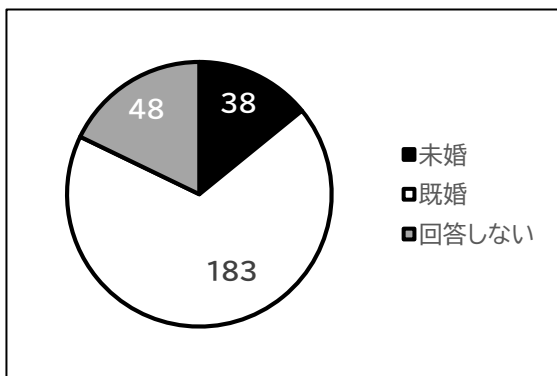
男女の別について回答のない方が2割近くいましたが、回答した方の中での男女比はおよそ1対2ほど、となっていました。



性別	性別
男	70
女	156
回答しない	43
合計	269

未婚者と既婚者の別

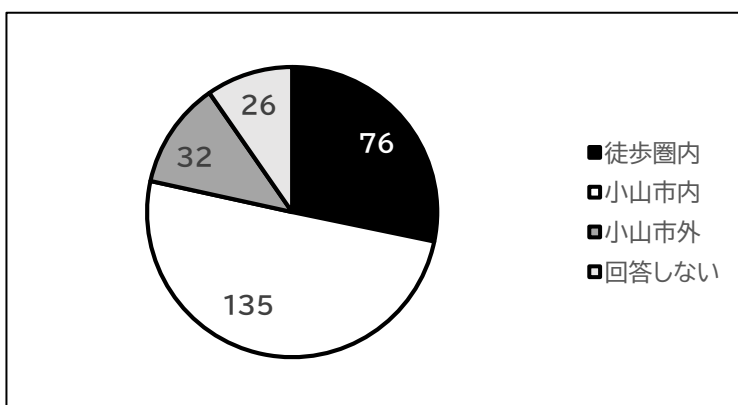
未婚者と既婚者の別について、その比率は1対4となっていました。



ご家族	未婚か既婚か
未婚	38
既婚	183
回答しない	48
合計	269

市内（市外）のどこにお住まいか

センター近隣（徒歩圏内）の方を含めて、全体の4分の3以上の方が小山市在住でした。その小山市在住の方のうちでは、2対3で徒歩圏内とそれ以外、となっていました。



お住まい	お住まい
徒歩圏内	76
小山市内	135
小山市外	32
回答しない	26
合計	269

1. 3 まとめ

以上の回答結果の集計により、回答者やおおむねのセンター利用者の傾向を知ることが出来ました。そこからみられた回答者像は、次の通りです。

来館頻度でみて「毎週来る人」と「年数回来る人」とが回答者の2本柱となっていたこと、「徒歩で来る」と「車で来る」とが来場者の2大移動手段であること（次いで自転車）、そして「講座・セミナー」と「展示・発表」が、回答者の方々の2大行動目的でした。

来館頻度	毎週来る人
	年数回来る人
来館手段	徒歩で来る
	車で来る
来館目的	講座・セミナー
	展示・発表

回答者の傾向概略の上位2群

また回答者の方々は、ギャラリーやホール、セミナー室を観覧者（主催者ではない一般参加者）として多く使っていました。

さらに、問1-5にあるセンターの魅力への回答は、「受けたい講座がある」が総回答の3分の1と多数ありました。また、うら面に行き、問2-1の学びたい理由についても「興味のあることを学び始めたい」が同様に総回答の3分の1と多数ありました。

センターで充実してほしい情報は「講座の情報」と「イベントの情報」が上位を占めていました。さらに生涯学習施設に来て学ぶ理由は「受講料が安いから」「専門家や講師に直接学べるから」「体験しながら学びたいから」が上位を占めていました。

センターの魅力	受けたい講座がある
学びたい理由	興味のあることを学び始めたい
充実してほしい情報	講座の情報、イベントの情報
施設に来て学ぶ理由	受講料が安い 専門家や講師に直接学べる 体験しながら学びたい

回答者の学びやセンター利用の動機上位

生涯学習のイメージは「人生を通じたすべての学び」という回答が多く、ついで「いっしょに学ぶ仲間づくり」「シニアの人たちの学び」が続きました。

回答者は60代、70代を中心に、10代から80代までの各年代にわたって分布していて、男女比はおおよそ1対2となっていました。

年代層	60代、70代を中心にした分布
男女比	男性1：女性2
未婚・既婚	未婚1：既婚4

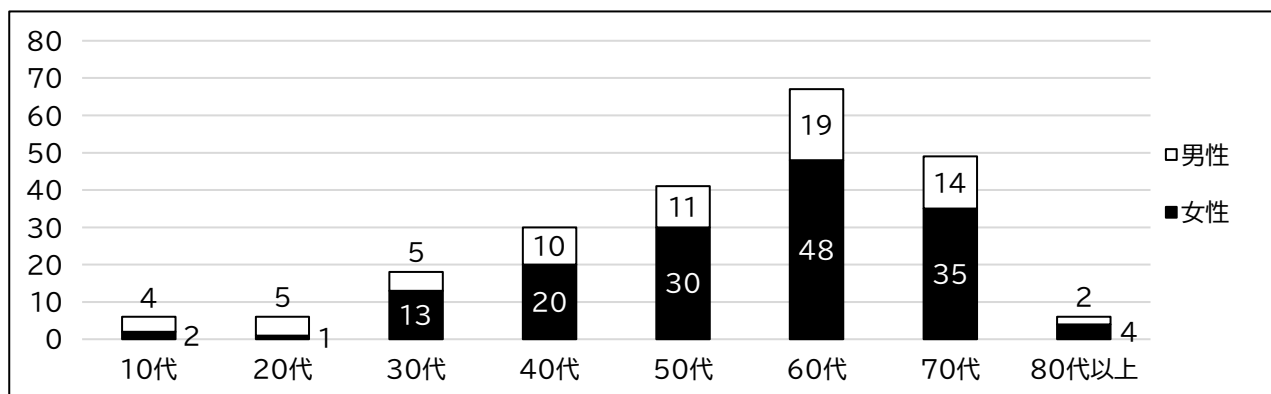
回答者の個人属性の傾向

第2節 データ概観

第1節では単純集計をしました。このことで回答者全体のおよその傾向を知ることが出来ました。次に、回答者の属性や選択肢の選び具合（選好といいます）を少し細かく見ていきます。

回答者の年代×男女

回答者の年代別の回答に男女比を添えてみました。具体的には「男女別」の回答に「年代」を掛け合わせたものです。結果は次のグラフの通りで、全体にわたって男性が少ない状況です。（ただし本節、次節では「回答しない」を含めていません）

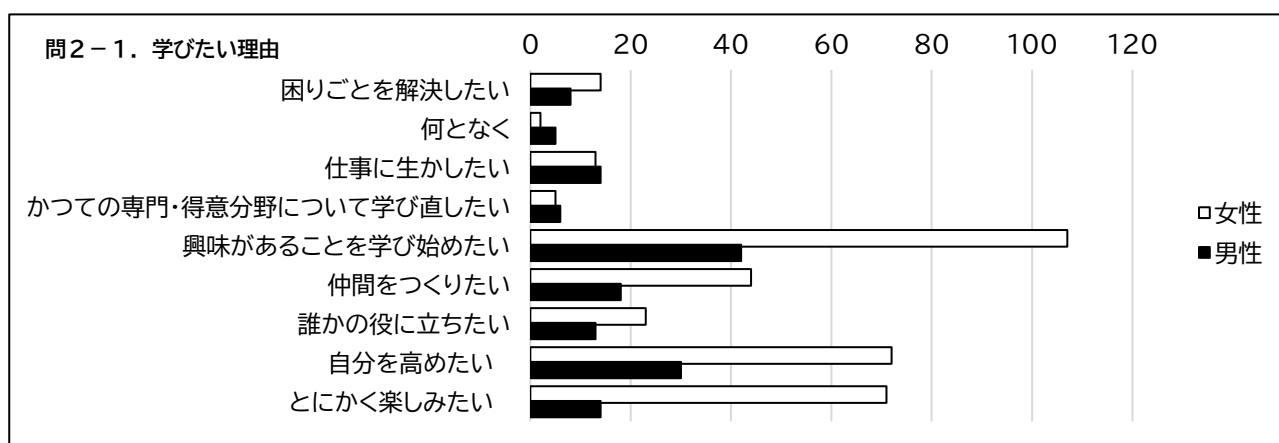


（年代別の無回答者、男女別の無回答者がそれぞれいるため合計数は1節のグラフと一致しません）

「学びたい理由」×男女

この状況を前提にしたうえで、問2-1の回答に同じように男女別を掛け合わせてみました。男女差が大きいものとしては、「とにかく楽しみたい」「仲間をつくりたい」「興味があることを学び始めたい」などが見られます。

なお、もう一つの注意点として単純集計の分別ですので、もともと男女比で回答数が約2倍多い女性の回答が自然と目に付くことに留意してください。

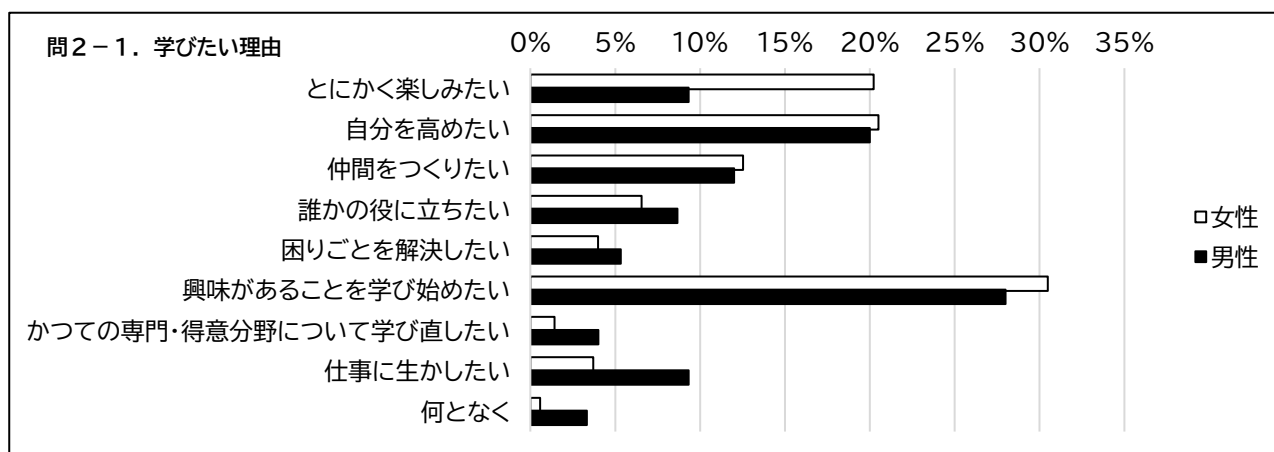


以上、ここでは単純集計とその下での回答の掛け合わせを見てみました。第3節では本節での回答傾向を考慮した集計結果をもとにさらに掛け合わせを行い、回答者にとっての生涯学習センターの利用意向や生涯学習への受け止め方を、もう少し詳しく見てみます。

第3節 分析

前節では、ある回答に対する属性の違いの掛け合わせをもとに、一つの回答の中に含まれる複数の属性の分布について簡単に見てみました。その中で注意点として挙げたのが属性に分けた際の回答数の大小による比較結果の大小への影響でした。そこで、回答の数ではなく同じカテゴリー（男性は男性、女性は女性）の回答内での「割合」で求めることで、影響を抑えることができます。

前節の最初のグラフを男女別に回答を選んだ率で示したのが次のグラフです。

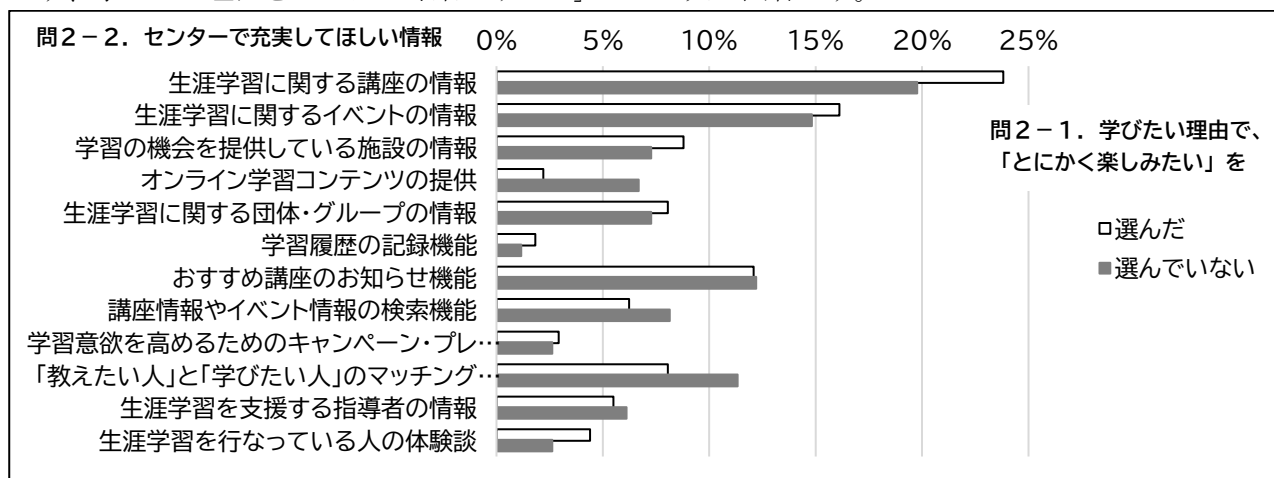


回答者のうち、男性が「仕事に生かしたい」、女性が「とにかく楽しみたい」という視点で学びを意味づけているのが、よりはっきりわかります。また、自分を高めたい、仲間をつくりたい、興味があることを学び始めたい、との回答に、それほど選好率（選ぶ度合い）の違いがないこともわかります。

「学びたい理由」×「充実してほしい情報」

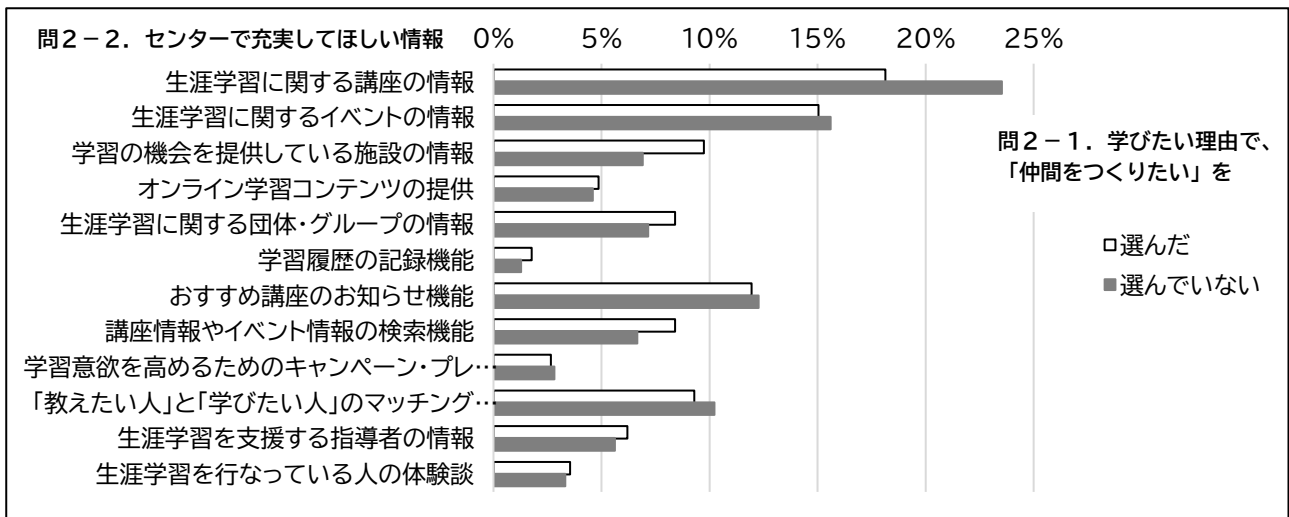
つぎに、問2-2の「センターで充実してほしい情報」を、問2-1の「学びたい理由」で選んだ回答ごとに選り分けて、その回答者の選好状況を見てみます。

まず、学びたい理由を「とにかく楽しみたい」とした人の回答です。



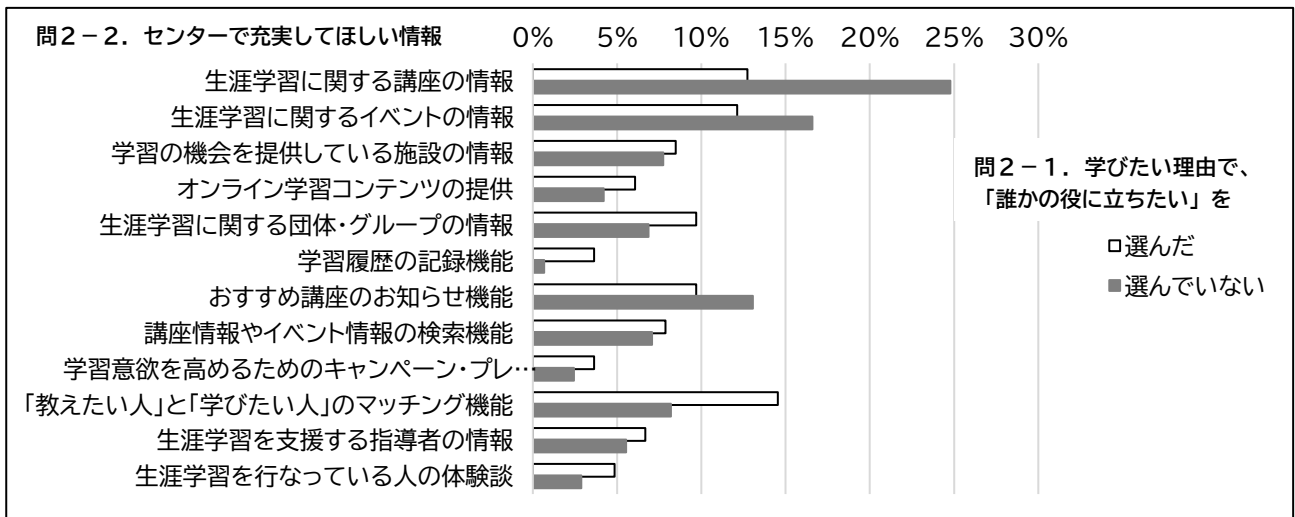
生涯学習に関する講座の情報、イベントの情報、施設の情報、グループの情報を、より多く選んでいるようです。

次に、同じく学びに求める事柄を「仲間をつくりたい」とした人の回答です。



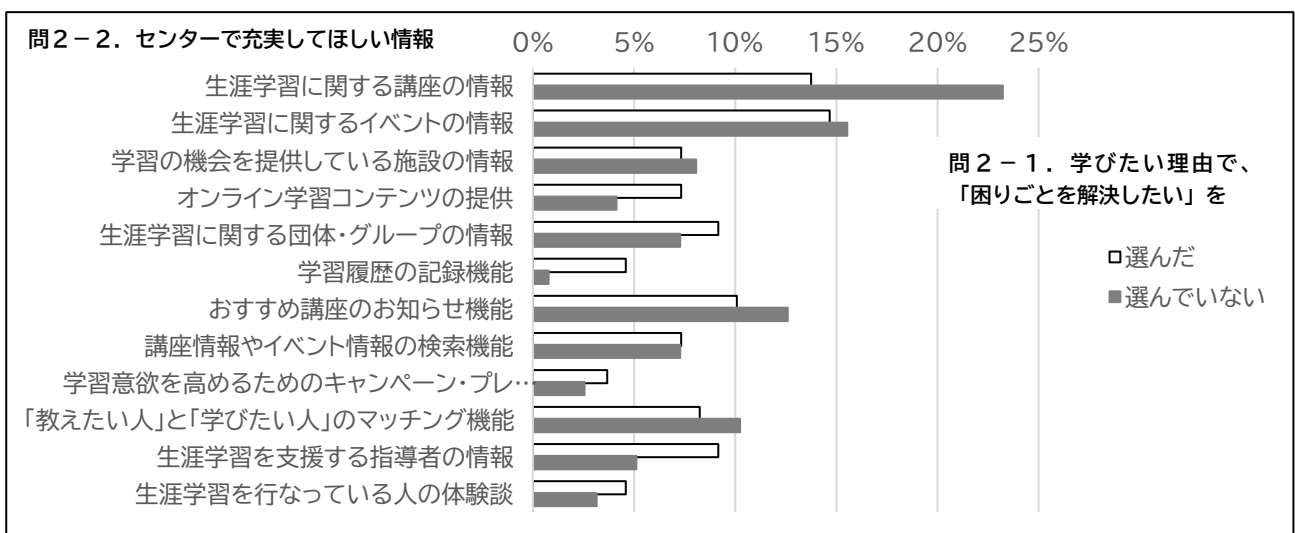
比較すると、講座情報やイベント情報の検索機能や、学習機会を提供している施設の情報の情報、学習グループの情報を求めています。

次に、「誰かの役に立ちたい」とした人の回答です。



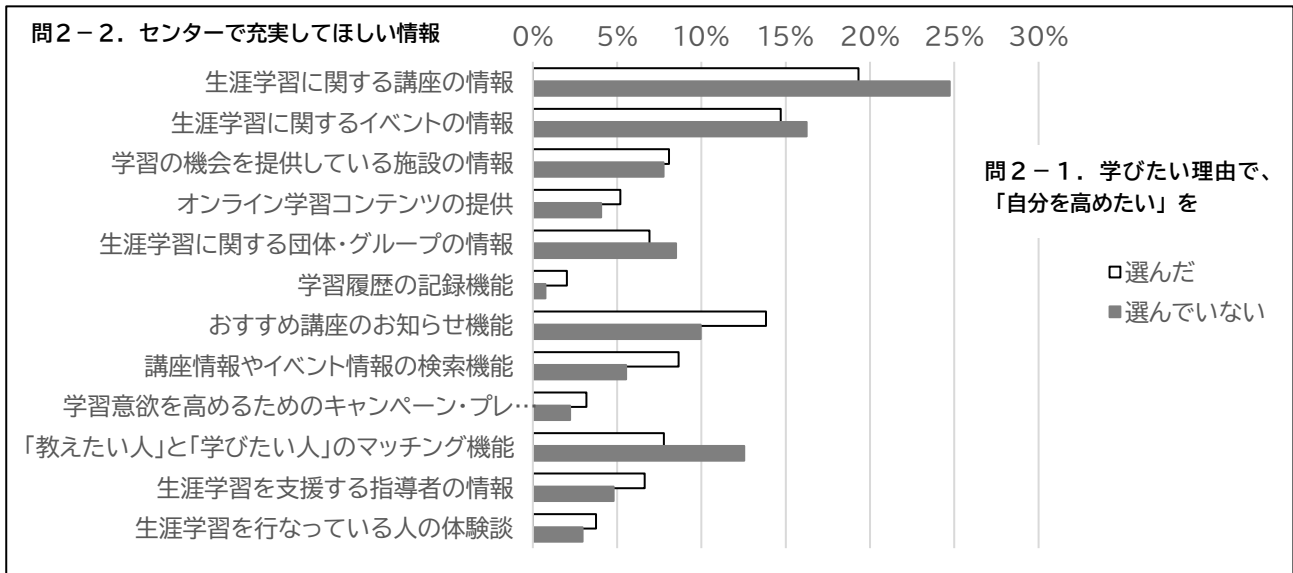
教えたい人と学びたい人のマッチング機能、生涯学習グループの情報、オンライン学習コンテンツ、そして学習者の体験談を求めている割合が高く出ました。

さらに、「困りごとを解決したい」とした人の回答です。



「学習履歴の記録機能」と「生涯学習を支援する指導者の情報」を選好する割合が高く、次いで「オンライン学習コンテンツの提供」、さらに「生涯学習を行っている人の体験談」、「生涯学習グループ等の情報」と続きました。

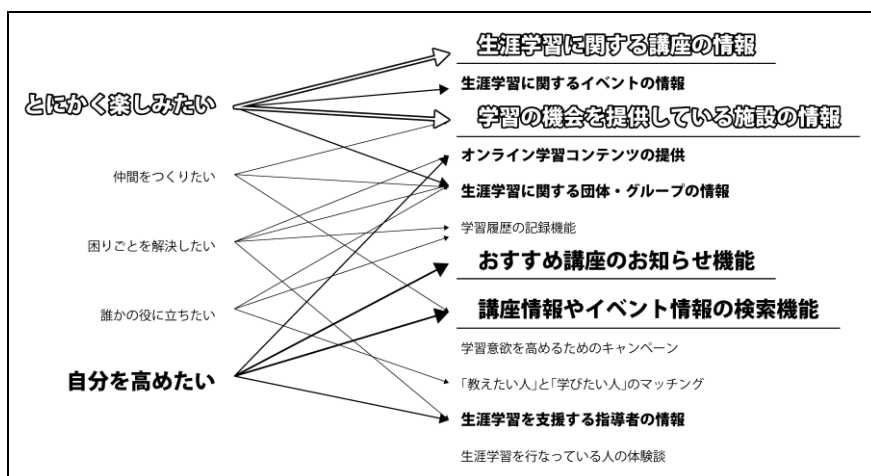
5つ目は、「自分を高めたい」とした人の回答傾向です。



「おすすめ講座のお知らせ機能」をより多く選好していて、また講座情報、イベント情報の検索機能にも回答が集まっています。ほかには学習履歴の記録機能や指導者の情報にも回答が集まっています。半面、マッチングに対する選好の割合は低く、こうしたことから回答者が自分に合った講座を自分で選び、また自分でそうした体験や活動を管理しようとする姿が浮かびます。

「自分を高めたい」人と「とにかく楽しみたい」人の比較

以上のように、たとえば問2-1の「学びたい理由」(左側)において、「自分を高めたい」人の回答と「とにかく楽しみたい」人の回答を並べてみて、問2-2の「センターで充実してほしい情報」(右側)のどこに回答が集中しているかを観測すると、回答数の差をもとにした関係性が見えてきます。



(左：問2-1 「学びたい理由」 右：問2-2 「センターで充実してほしい情報」)

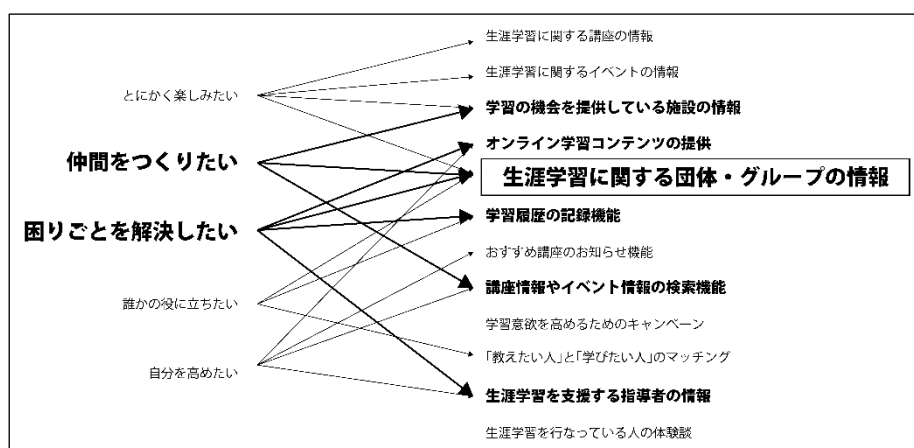
「自分を高めたい」人に着目すると、講座情報のお知らせを受けたり、自分自身で情報検索したりしていました。同じように「とにかく楽しみたい」人は、講座情報全般や施設情報全般を求めていました。

ひとつの質問票への回答として「講座情報を知りたい」と望んでいても、背景となる意識によって講座情報の望み方（質や講座情報の集め方など）は多様で、属性ごとに選好する意義に違いがあることがわかりました。

「生涯学習に関する団体・グループの情報」に関する気づき

クロス集計をもとにした別の読み取りについて、もう少し述べます。

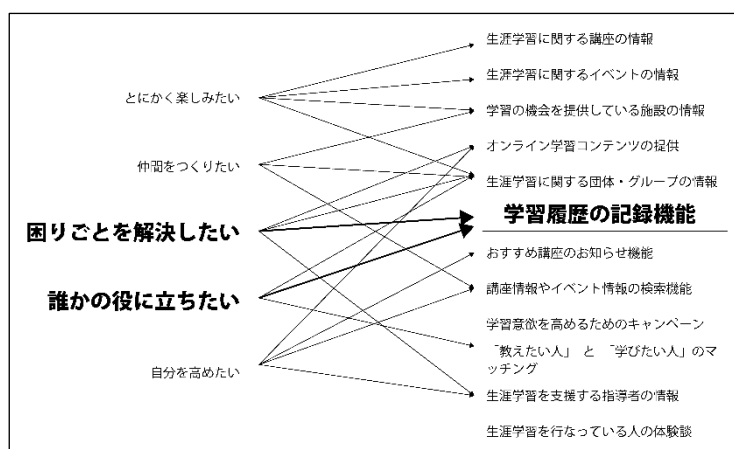
「仲間をつくりたい」という回答をした人と、「困りごとを解決したい」という回答をした人との間では共通項があまり感じられないのですが、ともに「生涯学習に関する団体・グループの情報」を選んでいました。



（ 左：問2-1 「学びたい理由」 右：問2-2 「センターで充実してほしい情報」 ）

「学習履歴の記録機能」に関する気づき

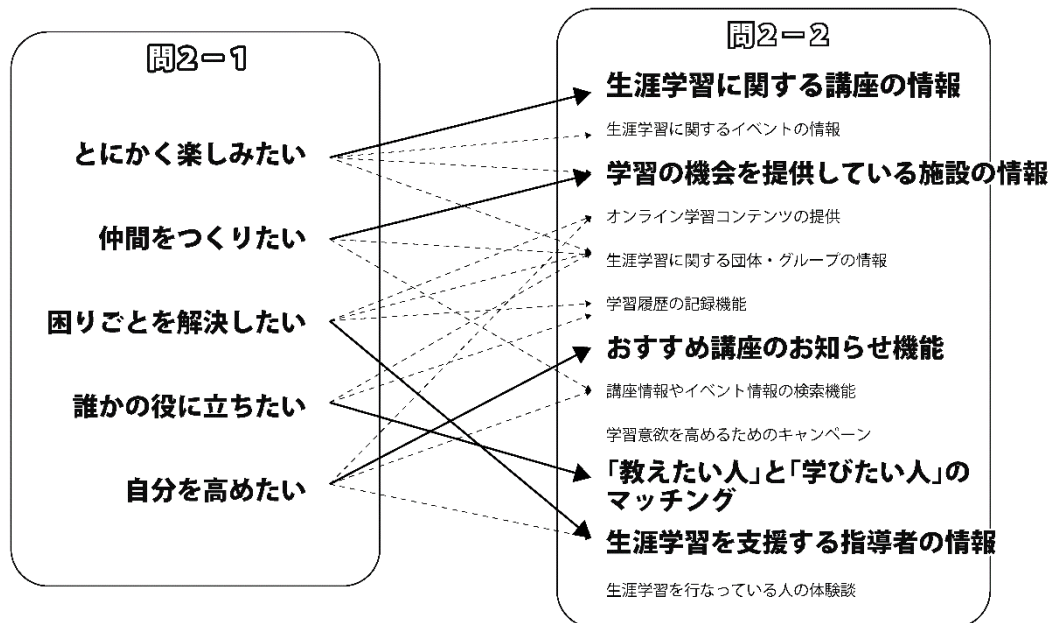
問2-2において「学習履歴の記録機能」を選好した人たちは決して多くなく、12項目中、12番目になっていました。しかしながら、問2-1で「困りごとを解決したい」もしくは「誰かの役に立ちたい」を選んだ人だけに絞れば、その多くが本回答を選好していて、他との開きが際立ちました。



（ 左：問2-1 「学びたい理由」 右：問2-2 「センターで充実してほしい情報」 ）

まとめ

本節では問2-1「何のために学ぶのか」と問2-2「どのような情報を求めているか」との掛け合わせを概観しただけですが、いくつかの回答の集中による具体的な傾向に気づきました。



(左：問2-1「学びたい理由」 右：問2-2「センターで充実してほしい情報」)

その結果、回答の選び方には回答者それぞれの背景があり、様々な関係性が理解できました。

第4節. まとめ

今回の市民アンケートは、1か月間で269人の回答が得られ、おおむねの傾向を把握することが出来ました。

1節でみてきた通り、回答者全体の傾向からおおよその市民全体の意識の傾向を推し量ることが出来、また2節で解釈したとおり、そのデータの内実を丁寧にみることで偏りの具体的な状況を知ることが出来ました。しかしながら市の人口からみると全体の0.16%にとどまっていることから、市民ニーズのさらなる抽出のためには今後も幅広い年齢層や多くの市民の声を聴くことが必要であると考えられます。

そのうえで、3節でみてきたように小山市立生涯学習センターの在り方や小山市の生涯学習の推進において、その市民ニーズについて具体的な形で得られる可能性を見いだすことも出来ました。

調査を踏まえて小山市民の生涯学習ニーズの一端を知見として得ることが出来たことで、また、得られた市民の声については、今後の事業づくりや講座、交流会などの構想やその具体化の作業の中で、大いに参考にしてまいります。

今後も事業づくりや計画づくりのなかで「市民の声を聴く機会」を設けて様々な声を受け止め、事業づくりに生かしてまいります。